

**2 年 次 生**

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	ジャズダンスⅢ	毛利あゆみ・迫畠令花

科目概要

プロとして通用する身体、テクニック、表現力を高めていきます  
1クォーターでは「セクシー」「マニッシュ」など、2クォーターでは「バラード」をテーマとし、“静と動”の表現力を学びます。ダンサーにとって「自分の世界」を創り上げる事がいかに大切なことか学んでいきます。

到達目標

感情や体の表現方法をテーマ、作品に沿って踊り分けが出来るようにしていきます。感情は表情だけではなく身体から表現する事によってダンスに説得力が出てきます。ただ踊るのは1年生で終わらせ、プロダンサーとして意識した踊り方、テクニックを身につけていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	振付を丁寧に覚える	与えられた振付を自分の解釈ではなく振付者の意図に沿って踊る能力をつけていきます。
第2回	イメージに合う動きを学ぶ	ただ踊るのではなく曲・振付に合った体の動かし方を学び、様々な音へのアプローチの仕方を学びます。
第3回	表現方法を学ぶ	曲のイメージにあった表現方法を学び、その曲の情景が思い浮かぶような表現が出来るようにしていきます。
第4回	全体の流れを掴む	フォーメーションをつけて周囲を意識して他の演者の空気を感じて踊る事を学んでいきます。
第5回	客観的に自分の踊りを見る	踊っている姿を自分で動画を撮影して振付作品を客観的に見て、体が動かせているか表現できているかなどを確認していきます。
第6回	作品踊りこみ	ここまでで習った作品の踊りこみをしていきます。体の使い方、音の取り方、表現方法など隔々まで確認をしていきます。
第7回	作品発表(クォーター末試験)	作品を発表します。振付は正確か・曲のイメージを理解しているか・表現は出来ているか学んだ事が出来ているか見ていきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%  
曲・振付を与えられた中で、いかに自分なりにイメージを膨らませているか、そのキャラクターを確立できているか、尚且つ自分自身の個性をプラスできているか、この3点をポイントに評価していきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	振付を正確に覚える	与えられた振付を自分の解釈ではなく振付者の意図に沿って踊る能力をつけていきます。
第2回	曲のイメージを表現	曲、歌詞のイメージに合う動きを学び、イメージが出来上がってきたらストーリーを作ります。
第3回	静と動を表現	動きに緩急をつける為に、静と動を覚えます。動きの幅を広げ身体表現を豊かにして身体を最大限に使います。
第4回	バラードの表現方法	バラードならではの感情表現を学んでいきます。感情を出す事を恥ずかしがらずに自分の思った表現をしていきます。
第5回	フォーメーションをつける	フォーメーションをつけて周囲を意識して他の演者の空気を感じて踊る事を学んでいきます。
第6回	客観的に自分の踊りを見る	踊っている姿を自分で動画を撮影して振付作品を客観的に見て、表現方法が間違っていないか確認をします。
第7回	作品踊りこみ	ここまでで習った作品の踊りこみをしていきます。一人で行わず他の演者と踊る事により足りないところを見つけていきます。
第8回	作品発表(学期末試験)	作品を発表します。振付を正確に覚える事を念頭に、感情を出して人に「伝える」事を意識していきます。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%  
動きの変化・表現・テクニック、細かい部分への気の使い方が出来ているか、柔軟な身体と強い感情表現をコントロールし自分の世界を作り上げているか、これらのポイントを評価していきます。

## ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	ジャズダンスⅣ	毛利あゆみ・迫畠令花

### 科目概要

卒業公演に向けての作品作りに入ります。今まで学んだ事を活かし、グレードの高い作品をプレゼンテーションしていきます。

3クォーターは作品のコンセプトに従った自己アピールを研究し、4クォーターは今まで習ってきた事、覚えた事が身についているか、2年間の締めくくりを行います。

### 到達目標

2年間の総まとめとして今まで習得してきた基礎・テクニック・表現力を最大限に発揮して、作品を通して個々のレベルアップ、ステージングを身体で覚え、ただ踊るのではなく作品にあった嘘のない感情を表現し、プロとしての自覚を持つことを目標とします。

### 授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品コンセプト	作品のコンセプトを伝えます。イメージした上で振付に入ります。自分でどんどんイメージを膨らませていきます。
第2回	基盤作り	繰り返し繰り返し練習をして振付を正確に確実に覚えて基盤作りをしていきます。
第3回	表現方法	基盤ができれば動きの幅を広げていきます。イメージに合った表現方法を出していきます。
第4回	フォーメーションをつける	フォーメーションをつけて周りとの空気、呼吸を合わせて一体感を出していきます。常に周りを意識することが大切です。
第5回	客観的に自分の踊りを見る	踊っている姿を自分で動画を撮影して振付作品を客観的に見て、表現方法が間違っていないか確認をします。
第6回	作品踊りこみ	ここまで習った作品の踊りこみをしていきます。他の演者との合わせを忘れずに一体感が出ていることを確認していきます。
第7回	作品発表(クォーター末試験)	作品を発表します。振付を正確に覚える事を念頭に、自分というダンサーを思い切り出して表現していきます。

### クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%

基礎・テクニック・表現が自分のものとして最大限に活かされ、且つ形となって現れているか、「作品を作り上げる」という意識を持ちその中で自己アピールが出来ているか、この2点を重点的に評価していきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品コンセプト	卒業公演の作品の曲とコンセプトを発表します。その曲、コンセプトに対してイメージをしっかりと持ち振付に臨みます。
第2回	卒業公演振付1	卒業公演の振付に入ります。速く、正確に振りを取れるようにしていきます。
第3回	卒業公演振付2	引き続き振付を行います。もらっている振付を忘れることなく自分の個性もだしてアピールしていきます。
第4回	卒業公演振付3	フォーメーションをつけて全体で踊っていきます。全体の空気感、作品の最初から最後までを意識していきます。
第5回	コスチュームパレード	衣装チェックを行います。言われた衣装をただ着るのではなく作品に合った着方、自分に合う衣装選びが大事になります。
第6回	ドレスリハーサル	衣装を着て本番を想定して踊ります。衣装も表現するための重要なポイントになるため、雰囲気も大事にしていきます。
第7回	オリエンテーション	作品を動画撮影し個々の成果を確認して今後の目標を立てていきます。
第8回	総合発表(学期末テスト)	2年間最後の授業です。自分の力を最大限に出し、自分はこういうダンサーになったと最後のアピールをします。

### 学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%

2年間で習得した、基礎・テクニック・表現力が身についているか、作品を通して個々のレベルアップと自己表現がバランス良く出来ているか、これらをポイントに総合力を評価していきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	ストリートダンスⅢ	瀧本祐一・高橋寿江

科目概要

バックダンサー、テーマパークダンサーから、舞台でも必須とされるようになった「ストリートダンス」。  
ストリートダンスと一概に言っても沢山のジャンルがあります。ジャンルを幅広く習得するために体作り、基礎トレーニングを行っていきます。

到達目標

使える踊り、生きる踊り、魅せる踊りを習得していきます。それに伴う、身体、精神作り、判断能力と、「見る」力を付けて行きます。ダンスが踊れば良いのではなく、見る力を養い振付者の細かい所まで吸収し表現できるようにしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ストレッチ①	ストレッチの正しいやり方を覚えていきます。フラットバック、コントラクションなどの基礎トレーニングの流れを覚えます。
第2回	ストレッチ②	1回では覚えられないのでストレッチを反復して覚えていきます。覚える事により正しい体の使い方を覚えていきます。
第3回	ストレッチ③	段々とストレッチを覚えてきたらそれを振付にも応用していきます。体の使い方を覚えて見やすいダンスの踊り方を覚えます。
第4回	確認	覚えた上で修正作業を行っていきます。可動域の確認をして自分の動かせる体の限界点を伸ばしていきます。
第5回	アイソレーション	身体の各部位の動かし方を覚えてアイソレーションを習得していきます。
第6回	4種類のリズムトレーニング	ダウン・アップ・前ノリ・後ろノリを体の使い方を理解した上で、練習していき魅せ方の幅を広げていきます。
第7回	試験	基礎トレーニングで行った動きを取り入れたコンビネーションを踊ります。身体をしっかりと使っているかの確認をしていきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
アイソレーションを確実に覚えていて振付の中でのリズムがしっかりと活かされているか評価していきます。普段の授業のストレッチと基礎トレーニングの流れを覚えているかも評価ポイントとしていきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎トレーニング	フラットバック、コントラクションの習得をしていきます。正しく使うためにどこの筋肉を使うか理解していきます。
第2回	アイソレーション 復習	アイソレーションのトレーニングをしていきます。正しく使っているか、可動域は広がっているか確認していきます。
第3回	リズムトレーニング 応用	横ノリやダブルアップなどリズムトレーニングの応用をしていきます。アイソレーションを理解しながら行います。
第4回	リズム取りからのコンビネーション	リズム重視のコンビネーションを覚えていきます。使い方を理解しているか確認していきます。
第5回	アイソレーションからのコンビネーション	色々なアイソレーションを取り入れたコンビネーションを覚えていきます。身体を自分でコントロール出来るようにしていきます。
第6回	基礎トレーニング(SOUL DANCE)	SOUL DANCEの基礎トレーニングを行います。振りとの間を埋める為に欠かせないトレーニングです。
第7回	SOUL DANCE コンビネーション	SOUL DANCEのコンビネーションを覚えます。SOUL独特のノリを表現できるように反復練習していきます。
第8回	試験	

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
リズム、アイソレーションが体に入っていてコンビネーションに反映されているかを評価していきます。またクォーター末試験でも行った基礎トレーニングの流れが体に入って、習得出来ているかも評価ポイントとしていきます。

## ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	ストリートダンスⅣ	瀧本祐一・高橋寿江

### 科目概要

12月には「クリスマスライブ」、3月には2年間の集大成となる「卒業公演」が控えています。3クォーターでは曲に合った表現方法を、4クォーターでは見ているお客様に対する表現方法を習得していきます。

### 到達目標

基礎トレーニングをおろそかにせず、身体の使い方を見直していき、表現だけに走らない説得力のあるダンスを踊れるようにしていく事を目標とします。またオーディション時に必要となる振り覚えの速度を上げていく事も目標とします。

### 授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	HIPHOPコンビネーション	HIPHOPの中でも音取りの強いコンビネーションを覚えていきます。繊細かつ大胆に音取りを出来るようにしていきます。
第2回	コンビネーションからの表現	まずはコンビネーションを覚えます。その後、曲の意味、振付の意味を伝えそれに合った表現方法を学んでいきます。
第3回	振り覚えの速度アップ	限られた振り入れの回数で振付を覚えていきます。細かい所まで習得する為にどうすればいいかを学んでいきます。
第4回	長振り覚えの速さと表現方法	前回よりも長い振付を限られた回数で覚え、振りだけでなく表現方法も考えながら踊れるようにしていきます。
第5回	ゆっくりな曲での表現	ゆっくりなテンポの曲の振付を行います。ゆっくりな分、身体を大きく使わないと間延びをしてしまうので埋め方を学んでいきます。
第6回	早い曲での表現	テンポの速い振付を行います。手先、足先だけでなく身体全部を使って表現するためにどうするかを学んでいきます。
第7回	試験	ミドルテンポの曲で振付を覚え発表します。早取りにならない為に身体を大きく使う事を学んでいきます。

### クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
楽曲のテンポやテイスト、振付のテイストをしっかりと考えて、その楽曲、振付に合った表現方法を理解して魅せる踊りにつなげるべく学習をしているか評価していきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フリーダンス	フリーで踊る力をつけていきます。ソロダンスとは違い自分がその曲に対して感じたものを考えずに出せるようにしていきます。
第2回	振付トレーニング	振付を覚えて残りの部分を自分で振付をします。フリーダンスではなくその前の振付と違和感のない振付を作成できるようにしていきます。
第3回	全ジャンルを網羅したコンビネーション	ここまで習ってきた全てのジャンルを使ったコンビネーションを行います。そのジャンルの特性を出せるようにしていきます。
第4回	魅せるという事	自分のダンスで人を魅了する為に何が学んでいきます。ただ踊るのではなく表情、空気感を変えていきます。
第5回	楽しませるという事	自分のダンスで人を楽しませる為に何が学んでいきます。何よりも自分が楽しんでいるかが大事です。
第6回	伝えるという事	自分のダンスを人に伝える為にどうするか学んでいきます。表面的なダンスにならないように説得力のあるダンスを心掛けていきます。
第7回	苦手意識の払拭	苦手意識を持って踊ると見ている人には伝わってしまいます。苦手な部分を一つずつ無くしていき、苦手意識を無くしていきます。
第8回	試験	振付を覚えて発表します。ここまで習ってきた事全てを出してもらいます。

### 学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
この一年間で、培ったものが、作品中に表現出来ているか、細部(手先、足先、表情)まで神経を使って踊れているか、人に魅せるという事を考えて踊れているか評価していきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	オールドスクールⅢ	太田幸希

科目概要

1年間学んできた事を活かし、さらにより良いダンサーを目指していきます。  
 ただ教えてもらうだけでなく、学んだことを自分なりに理解した上でアウトプットの練習もしていきます。  
 バトルなども経験してみましょう。

到達目標

習ったものを正確に表現するだけでなく、個性も際立つダンサーになるようにしていきます。また  
 インプットだけで終わらないようにアウトプットも当たり前出来るようにしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	LOCK・SOUL・PUNKING 応用	グループを組み、習った振付と別で各グループごとにLOCK,SOUL,PUNKINGを使った振付を考えていきます。
第2回	LOCK・SOUL・PUNKING 応用	習った振付、考えた振付をグループごとに発表していきます。
第3回	HOUSE DANCE 応用	グループを組み、習った振付と別で各グループごとにHOUSEを使った振付を考えていきます。
第4回	HOUSE DANCE 応用	習った振付、考えた振付をグループごとに発表していきます。
第5回	やってみよう ミニバトル	バトル形式の授業を行います。サークルを作りそれぞれのダンスを出し合っていきます。
第6回	LOCK・SOUL・PUNKING 応用	振付を覚え、振付とは別に自分たちで振付を考えて振り入れを行っていきます。
第7回	テスト	覚えた振付と制作した振付を発表していきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、テスト50%、平常20%とします。  
 ジャンルの特性がうまく表現できているか確認。正確に踊りこなすだけでなく個性もアピールできるかどうかを評価していきます。また振り付けの能力も確認&評価していきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「Tight!」作品制作1	9月公演の上演作品制作を行っていきます。ただ踊るのではなく人前で踊る事を意識していきます。
第2回	「Tight!」作品制作2	振付を開始していきます。正確に覚えて踊ることを学んでいきます。
第3回	「Tight!」作品制作3	振付を覚えたらその振付を正確に踊れているか確認をしていきます。
第4回	「Tight!」作品制作4	フォーメーションをつけていきます。どこの立ち位置で踊っているのかを確認していきます。
第5回	「Tight!」作品制作5	構成をつけていきます。自分がどこのタイミングで踊るかなど確認をしていきます。
第6回	「Tight!」作品制作6	作品の踊りこみをしていきます。正確に踊れているか、立ち位置、構成を理解しているかの確認もしていきます。
第7回	「Tight!」作品制作7	衣装をつけて本番同様に踊ります。客観的に見て自分の踊り、全体の踊りがどうかを確認して修正作業を行っていきます。
第8回	テスト	9月公演の上演作品をグループ分けをして発表を行っていきます。

学期末試験評価方法

出席30%、テスト50%、平常20%とします。  
 作品のジャンルの特性を理解しそのジャンルのダンスを表現できているかを確認&評価をしていきます。9月公演を意識して本番同様に踊れているかも確認していきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	オールドスクールⅣ	太田幸希

科目概要

インプット・アウトプットを繰り返しスキルをプロレベルにもっていきましょう。  
また色々な作品を経験していく上で色々な振り付けにすぐ順応できるようにしていきます。

到達目標

より高いスキルを習得し、プロに通用するレベルへしていきます。また踊る・創るだけでなくコミュニケーションや作法なども身に着け、外部でも通用するダンサーへなっていくように指導していきます。業界で長生きする為に礼節を大切にしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「クリスマスライブ」作品制作1	12月公演の上演作品制作を行っていきます。ただ踊るのではなく人前で踊る事を意識していきます。
第2回	「クリスマスライブ」作品制作2	振付を開始していきます。コンセプトを理解し正確に覚えて踊ることを学んでいきます。
第3回	「クリスマスライブ」作品制作3	振付を覚えたらその振付を正確に踊れているか動画撮影を行い確認をしていきます。
第4回	「クリスマスライブ」作品制作4	フォーメーションをつけていきます。どこの立ち位置で踊っているのかを確認していきます。
第5回	「クリスマスライブ」作品制作5	構成をつけていきます。自分がどこのタイミングで踊るかなど確認をしていきます。
第6回	「クリスマスライブ」作品制作6	作品の踊りこみをしていきます。正確に踊れているか、立ち位置、構成を理解しているかの確認もしていきます。
第7回	テスト	12月公演の上演作品をグループ分けをして発表を行っていきます。その中で自分の振付も作成し発表していきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、テスト50%、平常20%とします。  
作品のジャンルの特性を理解しそのジャンルのダンスを表現できているかを確認&評価をしていきます。12月公演を意識して本番同様に踊れているかも確認していきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「卒業公演」作品制作1	卒業公演の上演作品制作を行っていきます。ただ踊るのではなく人前で踊る事を意識していきます。
第2回	「卒業公演」作品制作2	振付を開始していきます。コンセプトを理解し、ステージの大きさも理解して踊ることを学んでいきます。
第3回	「卒業公演」作品制作3	振付を覚えたらその振付を正確に踊れているか動画撮影を行い確認をしていきます。
第4回	「卒業公演」作品制作4	フォーメーションをつけていきます。どこの立ち位置で踊っているのかを確認していきます。
第5回	「卒業公演」作品制作5	構成をつけていきます。自分がどこのタイミングで踊るかなど確認をしていきます。
第6回	「卒業公演」作品制作6	作品の踊りこみをしていきます。正確に踊れているか、立ち位置、構成を理解しているかの確認もしていきます。
第7回	「卒業公演」作品制作7	衣装をつけて本番同様に踊ります。客観的に見て自分の踊り、全体の踊りがどうかを確認して修正作業を行っていきます。
第8回	テスト	卒業公演の上演作品をグループ分けをして発表を行っていきます。その中で自分の振付も作成し発表していきます。

学期末試験評価方法

出席30%、テスト50%、平常20%とします。  
ジャンルの特性がうまく表現できているか確認をして、正確に踊りこなすだけではなく個性もアピールできるかどうかを評価していきます。2年間学んできた事全てを出し切れるかも見ていきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	クラシックバレエⅢ	佐々木典子

科目概要

1年生で学んだ基礎を踏まえ、柔軟性、キープ力、跳躍力を強化しテクニックの向上を目指します。バーレッスン、センターレッスンの内容もより複雑になり充実していきます。

到達目標

軸や重心を意識しながら移動するフロアーワークは、しなやかな動きが必要とされるジャズダンスやコンテンポラリーダンス等に役立ち、柔軟性と筋力を高める事で怪我をしにくい身体を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	柔軟性の強化①	バーを使ったストレッチを解説します。身体の構造を理解して行えるようにしていきます。
第2回	柔軟性の強化②	フロアでのストレッチを解説します。つま先、指先にまで神経を行き届かせます。
第3回	キープ力の強化①	足を高く上げた状態でを保つ力を養います。どこの筋肉を使っているのか理解しながら行います。
第4回	キープ力の強化②	身体の軸の強化を行います。自分の軸がどこにあるのか感じながら行っていきます。
第5回	跳躍力の強化①	瞬発力の強化を行います。重心がどこにあるのか考え、感じながら強化をしていきます。
第6回	跳躍力の強化②	身体の軸の強化を行い、更に瞬発力を鍛えていきます。
第7回	試験	より複雑かつ高度になった内容でバーレッスンを行います。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
更に発展させた内容でバーレッスンをを行いながら、基本に忠実に正確なポジションが通れているか採点します。ダンサーの身体作りに欠かせないバーレッスンの流れを覚えます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンシェヌマン(アダージオ)	身体の軸を意識し、緩やかな動きの中でより丁寧な動作を学びます。
第2回	アンシェヌマン(タンデュ)	片方の足に立つ意識を強化し、ターンやジャンプに繋がる筋力を身に付けます。
第3回	アンシェヌマン(ピルエット)①	軸の意識を強化し、回転時に体制を崩さないよう練習します。意識をすることが大切です。
第4回	アンシェヌマン(ピルエット)②	移動のステップを組み合わせさせて練習します。移動してからの重心を考えてピルエットに繋がられるようにしていきます。
第5回	アンシェヌマン(アレグロ)	基本的なジャンプから複雑なジャンプまで、重心移動のコントロールを学びます。
第6回	アンシェヌマン(グランワルツ)	大きなステップと大きなジャンプを組み合わせさせて流れるようなムーブメントを身に付けます。
第7回	アンシェヌマン(ターン)	ピケやシエネなど、移動していくtraviling turnを練習します。
第8回	試験	2クォーターでそれぞれ行ってきたアンシェヌマンを採点します。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
正確なポジションを通りながら複雑なアンシェヌマンの流れを理解し、よりしなやかで流れるような動作が行えているかを採点していきます。



ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	クラシックバレエⅣ	佐々木典子

科目概要

春学期に続き、テクニックの強化を行っていきます。4クォーターでは古典バレエの振付にも挑戦して、技術と表現力の向上を目指していきます。基礎も大切にしていき、高度な技術を身につけていきます。

到達目標

正確な基礎は美しいラインと確実な技術力に繋がります。これまでに学んだ事を踏まえ、美しくなやかに踊る事を目指します。表現方法も考えて作品ごとの表現が出来るようにしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンシェヌマン(アダージオ)	春学期よりも身体の軸を意識し、緩やかな動きの中でより丁寧な動作を発展させた内容で練習します。
第2回	アンシェヌマン(ピルエット)①	回転時に体制を崩さない為の軸の意識を春学期よりも更に発展させた内容で練習します。
第3回	アンシェヌマン(ピルエット)②	移動のステップの組み合わせを春学期よりも更に発展させた内容で練習します。
第4回	アンシェヌマン(アレグロ)	春学期に学んだ基本的なジャンプから複雑なジャンプの重心移動のコントロールをさらに発展させた内容で練習します。
第5回	アンシェヌマン(グランワルツ)	大きなステップと大きなジャンプを組み合わせるようなムーブメントをさらに発展させて練習し身に付けます。
第6回	アンシェヌマン(ターン)	ピケやシエネなど、移動していくtraviling turnを更に発展させた内容で練習します。
第7回	試験	3クォーターでそれぞれ学び、行ってきたアンシェヌマンを採点していきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
基本に忠実に行えているか、跳躍時、回転時の形の美しさも評価していきます。また2クォーターで学んだアンシェヌマンも理解しているかもポイントとしていきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンシェヌマン(アレグロ)	春学期、3クォーターよりもさらに発展させたアレグロを学んでいき、反復練習をしていきます。
第2回	アンシェヌマン(ピルエット)	春学期、3クォーターよりもさらに発展させたピルエットを学んでいき、反復練習をしていきます。
第3回	アンシェヌマン(グランワルツ)	春学期、3クォーターよりもさらに発展させたグランワルツを学んでいき、反復練習をしていきます。
第4回	traviling turn	春学期、3クォーターよりもさらに発展させたtraviling turnを学んでいき、反復練習をしていきます。
第5回	グランフェツテ	片足を軸として連続回転をするグランフェツテの練習を行っていきます。
第6回	バリエーション①	古典バレエにおけるバリエーションを練習していきます。映像を見てもの勉強になります。
第7回	バリエーション②	古典バレエにおけるバリエーションを練習していきます。古き良きものを知って自分の知識としていきます。
第8回	試験	4クォーターでそれぞれ学び行ってきたアンシェヌマンとバリエーションを採点していきます。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
古典バレエのバリエーションを通してさらに高い技術、表現力を身に付けます。正確なポジションと美しいラインが保たれているかも評価の対象としていきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	コンテンポラリージャズⅢ	大久保昌美

科目概要

テクニックの強化です。1年次で修得した基礎に磨きをかけていきます。より洗練された身のこなしと表現の幅を広げる工夫、日常生活からモチベーションを高く保ちます。ソロの振り付けを踊り度胸をつけていきます。

到達目標

テクニックを披露し自信をつけましょう。自分自身に湧き上がってくるインスピレーションや感情を大胆に表現していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	呼吸、ストレッチの応用	2人で行います。互いの呼吸を意識し支えたり身を任せることで収縮と弛緩を深く捉えられるようになります。
第2回	筋トレの応用	2人で互いのサポートをすることでより明確なトレーニングができます。モノを使っても良いでしょう。
第3回	スパイラル①	らせん状(渦巻き)の呼吸法です。動きに深い溜めと伸びを加えるテクニックを学びます。
第4回	スパイラル②	収縮(contraction)と弛緩(release)にスパイラルを加え動きに奥行きをつけます。
第5回	スパイラル③	らせん状(渦巻き)の動きが解けると同時に身体を開放し、脱力から生まれる動きを学びます。
第6回	スパイラル フロウアップ	スパイラルを取り入れたアップを覚え身体に染み込ませていきます。無駄のない動きを学びます。
第7回	試験	床での振付を覚え 皆の前で踊ります。思い切り大きく動けたか、次の目標を立てます。

クォーター末試験評価方法

【出席30%・試験50%・平常20%】日々のトレーニングが体に染み込んで身のこなしに現れてきたか、動きと同時に湧き上がる感情を表現し、自由に大胆に踊れているかを見ます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クロスフロー①ターン	シエネ、ピケ、ピルエットのより高度な技術に挑戦します。
第2回	クロスフロー②フェット、アクセルジャンプ	フェットの正確な方法を覚え応用しアクセルジャンプを学びます。
第3回	クロスフロー③シエネジュッテ	最もダイナミックなテクニックです。キレと高さを要求されます。
第4回	クロスフロー④ターン&ジャンプ	高度な内容を正確にダイナミックに見せていきます。
第5回	スロージャズ振付(ソロ)	スロージャズの振り付けです。1~4で修得したテクニックを含む振付です。
第6回	スロージャズ振付(ソロ)	テクニックに加え、ニュアンスを伝える表現が要求されます。曲をよく聞いてイメージを膨らませます。
第7回	スロージャズ振付(ソロ)	ソロでも空間を埋められるように360°意識して踊り込みます。
第8回	試験	ソロの振付を皆の前で踊ります。一人で踊る感覚を体験し、不足している部分を見つけ次の目標を立てます。

学期末試験評価方法

【出席30%・試験50%・平常20%】テクニック中心のスロージャズを踊ります。バレエテクニックは正確か、ジャズ特有の動き方もニュアンスとなって伝わってくるかが評価の基準です。しっかり踊り込み発表します。技術と表現の両方から評価します。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	コンテンポラリージャズⅣ	大久保昌美

科目概要

振付作品を踊るにあたり、ダンサーに求められるものは表現力です。湧き上がってくるものをいかに表現するのかを探っていきます。自らが表現し動きを作り出していきます。存在をアピールするテクニックです。コレオグラファーになる際にも重要となります。

到達目標

振付をもらうだけではなく、自ら感じたことを表現できたか。ジャンルにとらわれず、独創性を養い、人の心を動かし、求められるダンサーを目指します。そして多くの人に観てもらいましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コンテンポラリーコンビネーション	音のイメージを掴む。何の音か、どの楽器か、どんなリズムか、イメージがより膨らむものをチョイスします。
第2回	コンテンポラリーコンビネーション	人物、モノ、気持ち、時代、背景等、ダンサー同士直接ディスカッションするのもヒントとなります。
第3回	コンテンポラリーコンビネーション	どんな衣装になるか、どんな照明なのか、ステージプランなど、動きのヒントになるものを探してみよう。
第4回	コンテンポラリー振付	振付をもらったら1～3をもとにどんなふうに踊りたいかイメージを膨らませます。
第5回	コンテンポラリー振付	イメージを動きにします。立ち方、目線などニュアンスの表現です。振付のない所も隙間なく埋めていきます。
第6回	コンテンポラリー振付	踊り込む際に自己表現します。ダンサー同士、振付者とのディスカッションで作品の雰囲気や明確に作ります。
第7回	試験	作品に情熱を注ぎ、踊ることが出来たか。またどのように伝わったか。次への目標を決めます。

クォーター末試験評価方法

【出席30%・試験50%・平常20%】テクニックだけでは選れたダンサーにはなれません。コンテンポラリーダンスでは直感をいかに表現できるか、リハーサル時から表現し、いかに作品にかかわり作品の中で自分の存在をアピールできたかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品制作①	振付を覚える。オリジナルの衣装制作により作品への愛着とイメージを膨らませていく。
第2回	作品制作②	フォーメーションを覚え、立ち位置を把握する。ホールの規模、客席との距離感も把握する。
第3回	作品制作③	構成を理解し、表現をしていきます。周りの動きもよく見て感じ取ります。
第4回	作品制作④	踊り込みの際に出はけの確認や導線の確保をしていく。ダンサー同士連携する。
第5回	作品制作⑤	揃える動き、空いている空間を埋めていく。雰囲気を作り上げていく。
第6回	作品制作⑥	音を繰り返し聞き込み、振りを丁寧に、表現と共に気持ちも乗せていく。
第7回	作品制作⑦	最終リハーサルでテンションをあげ作品に入り込み、すべてを発揮して踊り魅せます。
第8回	試験	本番はリハーサルと同様に踊り、作り上げた作品の世界で楽しんでください。多くの人に観てもらい次の目標を見つけましょう。

学期末試験評価方法

【出席30%・試験50%・平常20%】コンテンポラリージャズを学んだことで、技術の向上と溢れ出る表現を修得できたか、2年間の成長を評価します。作品への意欲とリハーサル時の集中力、本番でのパフォーマンス、常に探究、開発をしモチベーションを高め、次へつなげる力が付いたかを評価します。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	タップダンスⅢ	竹田祐子

科目概要

2年目に入り、この頃しっかり身体で覚えた人は動きもよく、何かに取り入れたりできるようになり、習得したテクニックを生かすことを知ったはずで、努力の結果は歴然と現れます。自分自身の幅を広げることがどんなに大切で、また喜びに通じるかも分かると思います。惜しまぬ努力をして、集中するのが良いでしょう。

到達目標

リズムと動きが全体でバランスよく動けるようになりましょう。片寄ったものになってはダンスの良さ、綺麗さはないので、テクニックを含めトータルな雰囲気レベルアップしましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1年生のまとめ 1	1年生のころに習ったステップ、技をマスターできているかの確認をします。
第2回	1年生のまとめ 2	何度も復習をしながらリズムとステップの再確認をしていきます。
第3回	3連・4連・6連	リズムを理解し、使い分けられるようにしていきます。それぞれのリズムを繋がって聞こえるようにしていきます。
第4回	クランプロール	複数のパターンを覚え、徐々に早く練習していきましょう。まずは確実に音を出せるように心掛けていきます。
第5回	バッファロー	ステップを覚えます。覚えてきたら、上半身の動きもつけて身体全部でステップを踏んでみます。
第6回	応用	これまでのステップを組み合わせて踊り込みをします。各ステップを理解しているか確認もしていきます。
第7回	テスト	振付を覚えて少人数で発表をしていきます。

クォーター末試験評価方法

出席40%、テスト40%、平常点20%とします。  
挑戦することの多かったこのクォーターで、どんどん進むほどに収穫も多く、ただひたすらに努力することの成果で評価をしていきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1クォーターの復習	1クォーターで習ったリズム、ステップ、技をマスターできているかの確認をします。
第2回	コンビネーション 1	長い振付を短時間で覚えられる授業を行います。振り取りの能力をつけていきます。
第3回	コンビネーション 2	曲の雰囲気に合わせて踊っていきます。上半身の表現方法も考えながら踊ります。
第4回	コンビネーション 3	曲の合間のフリーの部分まで習ったステップなどを使い自分で埋めていきます。
第5回	変拍子 1	聞き慣れない拍子の曲で振付を覚えます。ステップ自体は変わらないので惑わされないようにしていきます。
第6回	変拍子 2	聞き慣れない拍子の曲で振付を覚え、身体が慣れてくるように何度も繰り返し練習をしていきます。
第7回	応用	これまでのステップを組み合わせて踊り込みをします。各ステップを理解しているか確認もしていきます。
第8回	テスト	振付を覚えて少人数で発表をしていきます。

学期末試験評価方法

出席40%、テスト30%、平常点30%とします。  
コンビネーションや変拍子を理解してステップを正確に踏めているか評価をしていきます。また応用する事で自分のTAPの表現方法を増やせているかも評価していきます。

## ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	タップダンスⅣ	竹田祐子

### 科目概要

卒業も間近に迫り、作品制作にあたり今まで習ってきたこと総てを取り入れられるよう、ここでしっかり復習をして、改めて正確であるかどうかを確認したいと思います。そして生かせるものは総て取り入れて作品の発表をできるようにします。

### 到達目標

今まで習ってきたこと総てを生かし、作品で表現できるようになる事が目標です。真面目に授業を受けていれば全てのステップ、技が出来るようになっているはずですが、1つ1つのステップ、技を単体で考えず流れの中で行えるようにしていきます。

### 授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2クォーターの復習	2クォーターで習ったリズムなど、マスターできているかの確認をします。
第2回	振付作品制作 1	ここまでで覚えたステップを活かしてコンビネーションを作り発表していきます。
第3回	振付作品制作 2	自分で振付することの楽しさを覚えその楽しさを見ている人に伝える力をつけていきます。
第4回	振付作品制作 3	リズム、ステップ、流れなどを考えながら、理解をして振付を作ります。無理のない振付作りをしていきます。
第5回	インプロ 1	インプロの練習方法を学び、実践していきます。ソロを作るのではなく感じるままにステップを踏みます。
第6回	インプロ 2	インプロを楽しみます。自分の思うまま、感じるままに踊る事がいかに楽しい事かを知っていきます。
第7回	テスト	自分で小作品を作り、発表しましょう。

### クォーター末試験評価方法

出席40%、テスト40%、平常点20%とします。  
基礎からかなりレベルアップしてきたこの時期に、一気に様々なステップを取り入れた自作の自由作品で評価します。その結果の作品に対する意見を述べてもらうことで、次へのステップアップになると思います。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業公演作品 1	長い振付を集中して覚えましょう。まずは形から覚えていきます。
第2回	卒業公演作品 2	長い振付を集中して覚えましょう。音を正確に出せるようにしていきます。
第3回	卒業公演作品 3	長い振付を集中して覚えましょう。音がしっかりと出せるようになったら形にもこだわっていきます。
第4回	卒業公演作品 4	上半身や表情など、表現も作り込みましょう。下半身だけにならず身体全部で踊れるようにしていきます。
第5回	卒業公演作品 5	上半身や表情など、表現も作り込みましょう。振付、音がしっかりと出せるようになったら表現方法も考えていきます。
第6回	卒業公演作品 6	上半身や表情など、表現も作り込みましょう。表現先行、ステップ先行にならず全てが繋がって見えるようにしていきます。
第7回	卒業公演作品 7	2年間の集大成となる作品を、最後まで妥協せず作り上げましょう。
第8回	テスト	作品を踊って評価します。

### 学期末試験評価方法

出席40%、テスト40%、平常点20%とします。  
出席することの意義を理解し、また作品に参加することの有意義さを知ってもらい、その努力を認め評価します。卒業公演の作品は与えられた振りをただ踊るのではなく自分で表現するようにしていきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	シアタージャズⅢ	武井一仁

科目概要

実際のプレゼンテーション(オンステージ)の中で、いかにテクニック、表現、存在感やキャラクター性を活かしてアピールするかの技術を学びます。ダンスは短いドラマの連続なので、瞬間瞬間のドラマがいかに成立しているかで観るものに説得力を与える、ということを読んでください。

到達目標

キャラクターの設定、キャラクターの個性での演技、いかに空間に実在しているか(存在感)など、表現法には欠かせない重要な要素が必要とされることを実感してください。また、単なるカウントダンスに陥らずに、振りと振りの間をうめていき、音と音の間を踊りきるように心がけましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	振付を覚える／正確に、ダイナミックに	いかに振付を早く、正確に覚えられるか、覚えた振りを、いかにダイナミックに踊りこなせるかがポイントです。
第2回	振付を覚える／ダイナミック、かつ丁寧に	ダイナミックに動くことで踊りが崩れてはいけません。運動量を減らさずに、いかに丁寧に踊るかがポイントです。
第3回	振付を覚える／音を聴く	ダンスは音楽にのって踊ります。音楽を聴いてフィーリングを大切に、カウントダンスにならないよう注意してください。
第4回	フォーメーションを付ける	決められたポジションで踊ることはもちろん、登場・退場・移動もダンスのひとつだということを認識してください。
第5回	キャラクターを表現する	キャラクターの設定を細かくし、イメージをはっきりと決めましょう。そして、決めたキャラクターを演じてください。
第6回	作品の構成・演出の確認	作品の全体像をしっかりと見極め、何を見せたくて踊るのかを確認しましょう。
第7回	作品プレゼンテーション	1クォーターの試験になります。オンステージしたつもりで、大胆に、かつ繊細に表現していきましょう。

クォーター末試験評価方法

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験50%、平常点30%、出席20%  
作品のプレゼンテーションの中でテクニック、表現、存在感、キャラクター性を活かしてアピールできているか、テンションの上げ方、表情などさまざまな部分を細かく考えられているかを評価していきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	振付を覚える／ニュアンスを掴む	振付を覚えるのと同時に、細かいニュアンスもしっかりと見極めてください。ニュアンスによって振りが全く違うものになります。
第2回	振付を覚える／音を出す	ダンサーの身体は楽器です。自分の身体から音が出ているか意識して踊りましょう。
第3回	振付を覚える／音のマッチング	音楽とともに踊り、自分の身体から出る音が楽曲とマッチしているかを確認しましょう。
第4回	フォーメーションを付ける	決められたポジションで踊ることはもちろん、登場・退場・移動もダンスのひとつだということを認識してください。
第5回	キャラクターを表現する	キャラクターの設定を細かくし、イメージをはっきりと決めましょう。そして、決めたキャラクターを演じてください。
第6回	作品の構成・演出の確認	舞台上の目線で踊るのではなく、客席からどう見えるのかを意識しましょう。
第7回	ドレスリハーサル	衣装を着用して踊ります。衣装が活きるように着こなし、衣装に動きがより活かされるように踊ります。
第8回	作品プレゼンテーション	2クォーターの試験になります。意識は本番通りに持ち、大胆に、かつ繊細に表現していきましょう。

学期末試験評価方法

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験50%、平常点30%、出席20%  
ニュアンスは取れているか、身体から音が出ているか、その音が楽曲とマッチしているか、客席目線を理解して踊れているかななどをポイントに評価していきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	シアタージャズⅣ	武井一仁

科目概要

秋学期では、3クォーターではヒールジャズにチャレンジします。ハイヒールを履いて華麗に踊るにはどうすればいいかを習得してください。また4クォーターでは卒業公演での上演作品を制作していきます。いよいよ2年間の集大成になるので、今まで得たものを存分に発揮してください。

到達目標

ヒールを履いて踊る「ステップのスキル」を身に付けます。足さばきだけではなく身体のラインも意識して、美しい身のこなしを習得しましょう。卒業公演では2年間に習得したものを発揮し、プロの世界で通用する踊りを目指しましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ウォーキング／重心	ハイヒールで踊るといことは重心そのものが変わってきます。つま先重心をしっかりと意識して、姿勢を理解していきます。
第2回	ウォーキング／ステップ	ヒールジャズのステップを習得しましょう。様々なステップがありますが、基本はつま先からです。
第3回	ウォーキング／回転	回転の伴ったステップを習得します。基本的なことは変わりませんが、ステップの流れの中での回転を意識しましょう。
第4回	ウォーキング／ジャンプ	ジャンプも基本的なことは変わりませんが、踏切りと着地の際にヒールがあることを意識しましょう。
第5回	振付～フォーメーション	振付の意図をしっかりととらえ、登・退場、移動を含めスキのないパフォーマンスを心掛けましょう。
第6回	ドレスリハーサル	ワンピースを着て踊るといことを実感してください。スカートさばきもダンスの中に入ります。
第7回	作品プレゼンテーション	3クォーターの試験になります。ヒールジャズ特有の身のこなし、足さばきなどに注意しましょう。

クォーター末試験評価方法

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験50%、平常点30%、出席20%  
身体のライン、重心、つま先の意識、身のこなし、足さばきなどヒールジャズに必要な要素がしっかりと習得できているかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品制作／テーマ	どんな作品にも「テーマ」は必ずあります。その根底のところをまず理解してから振付を覚えましょう。
第2回	作品制作／振付	シアタージャズ特有の演劇性やシチュエーション、キャラクターなどを加味しながら振付を覚えましょう。
第3回	作品制作／フォーメーション	登・退場、移動を含め、踊りからの一連の流れを大切に、舞台上の情景だけではなく舞台袖の情景も表現しましょう。
第4回	作品制作／衣装	決められた衣装をいかに着こなすかが重要です。細部にわたっての細工が決め手になります。
第5回	作品制作／演出	演出をよく理解し、作品の持つ世界観をしっかりと表現しましょう。その中に存在することも大事です。
第6回	作品制作／ドレスリハーサル	衣装の持つ魅力を最大限利用し、踊りを活かすように心がけましょう。そのためには練習が必要です。
第7回	作品制作／最終リハーサル	全ての要素を再点検し、最終リハに臨みます。テーマや演出、振付などの意図をしっかりと表現しましょう。
第8回	作品プレゼンテーション	4クォーターの試験になります。2年間学んできたことを忘れずに、大胆かつ丁寧にパフォーマンスしましょう。

学期末試験評価方法

作品プレゼンテーションによる実技試験。試験50%、平常点30%、出席20%  
2年間学んできたシアタージャズをどれだけ理解できているかを総合的に評価します。振付だけではなく演劇性、キャラクター、衣装などトータルパフォーマンスを心掛けてください。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	パフォーマンス総合制作Ⅲ	山崎拓也

科目概要

1年生の時に学んだ事を作品作りに生かしていきます。全員で協力し合い、ディスカッションを繰り返していきオリジナリティー溢れる作品を作っていきます。また、2クォーターでは秋公演「Tight!」の作品制作を行っていきます。

到達目標

全員が作品の内容、テーマ、構成、演出、ステージの形状、イベントの内容を把握した作品制作が出来るようにしていきます。決めたこと、決められていることなど制限がある中で自分たちの見せたい作品、伝えたい内容をはっきりと形に表せるようにしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	2年生の授業の進め方や学内イベントについて説明をします。イベントによってどのような内容の作品を制作していくか話し合います。
第2回	作品制作「内容決める」	AクラスBクラスに分かれてそれぞれの作品制作を行います。演出内容をクラス毎に話し合い発表をします。
第3回	作品制作「音決め、編集」	内容を決めたら音を決めていきます。内容に沿った楽曲を探し編集まで行っていきます。
第4回	作品制作「構成・演出決め」	楽曲が決まったら構成・演出を決めていき振付を開始していきます。全体の流れを考えながら振付をしていきます。
第5回	作品制作「中間発表」	出来ているところまでを発表します。進捗状況を確認して足りない部分などを確認して手直しを行っていきます。
第6回	作品制作「踊りこみ・照明プラン提出」	動画撮影を行い客観的に作品を見ます。その後、直しを行い踊りこみをしていきます。また照明プランも考え提出してもらいます。
第7回	作品発表(クォーター末試験)	1年生の前で衣装付で作品の発表を行います。動画撮影を行い、次の作品制作の反省も行います。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験(作品制作)50%平常点20%

1年生の斬新な発想にまけないようなオリジナリティー溢れる作品制作が出来ているか、構成・演出がしっかり練られていて作品に反映されているかを見ていきます。また、改めて社会人としてのマナーが身についているかもチェックします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「Tight!」について	昨年までのイベントを振り返り、今年の内容を決めていきます。イベントの規模、イベント内容を理解していきます。
第2回	コンセプトを決める	イベントの内容を決めていきます。昨年までのイベントにはないものを提案していけるように全員で意見を出し合います。
第3回	作品プランを練る	イベントの趣旨、イベントの内容にあった作品プランを立てていきます。その作品プランをデータで提出します。
第4回	作品制作「振付1」	音を決め、構成・演出を決めて振付を開始していきます。受け身にならず積極的に意見を出していきます。
第5回	作品制作「振付2」	全体の流れを考えながら振付をしていきます。ステージ空間を考えて作品制作を行っていきます。
第6回	作品制作「中間発表」	出来ているところまでを発表します。進捗状況を確認して足りない部分などを確認して手直しを行っていきます。
第7回	作品制作「踊りこみ」	動画撮影を行い客観的に作品を見ます。その後、直しを行い踊りこみをしていきます。
第8回	作品発表(学期末試験)	衣装を着けて作品発表を行います。その後、照明プランを提出して作品のプレゼンテーションを行います。

学期末試験評価方法

出席30%、試験(作品制作)50%平常点20%

イベントの内容を把握して効果的な作品制作ができているか、こだわりがありオリジナリティーある作品制作が出来たか、一人一人が作品制作に参加しているか、これらを評価のポイントとしていきます。



## ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	パフォーマンス総合制作IV	山崎拓也

### 科目概要

2年間の集大成と言える「卒業公演」の作品制作を3クォーター4クォーターで行っていきます。10分～15分の作品制作になるので、しっかりと話し合いをして今まで学んできた構成力・振付力を発揮しお客様に飽きられない隙のない作品制作を行っていきます。

### 到達目標

1000～1500人キャパの大ホールでの上演作品制作になるのでステージの形状、見え方を意識した作品制作になるので全員が作品に対して気持ちを持っていき、規模の大きいステージでも効果的に見せられ構成・演出・振付が出来る事を目標とします。

### 授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業公演について	卒業公演の大まかな概要説明と作品の方向性を話し合います。タイトルも決めていきます。
第2回	作品制作1	テーマを話し合い決めていきます。タイトルに沿ったものにするか全く別のテーマにするか話し合います。
第3回	作品制作2	テーマを決めたら作品内容を細かく決めていきます。作品に起承転結があるか確認をしていきます。
第4回	作品制作3	作品テーマにあった音を決めていきます。音の効果も考えて妥協のない楽曲探しをします。
第5回	作品制作4	構成・演出を考えながら振付を開始していきます。イメージを膨らませてよい案があれば提案をしていきます。
第6回	作品制作5	部分的ではなく全体を考えながら振付を行っていきます。全体を把握して矛盾点がない作品制作を行っていきます。
第7回	中間発表(クォーター末試験)	途中経過を確認、チェックをしてダメ出しを行います。その後、自分たちでも確認をして直しの作業を行います。

### クォーター末試験評価方法

出席30%、試験(作品制作)50%平常点20%

構成・演出・表現・振付・衣装が総合的にまとまっているかを評価していきます。各役割に責任を持って仕事をこなしているか、積極的に作品制作に携わっているか、を評価していきます。個々の自己管理も評価のポイントとしていきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品制作6	3クォーターでのダメ出し部分の修正をしていきます。出来ていない部分の作品制作も行っていきます。
第2回	作品制作7	引き続き作品制作を行っていきます。動画撮影を行い客観的に見て何が足りないかを把握していきます。
第3回	作品制作8	ここまでで作品が出来ているようにスケジューリングをしておきます。全体を通して直しを行っていきます。
第4回	作品制作9	直し・踊りこみを繰り返していきます。自己満足な作品、踊り方になっていないか確認をしていきます。
第5回	中間発表	衣装を着けた状態で発表をします。ダメ出し部分を直し、踊りこみをして作品に厚みを持たせていきます。
第6回	作品制作10	直し・踊りこみを繰り返していきます。どこから見ても隙のない作品になっているか確認をしていきます。
第7回	最終確認	衣装を着けた状態で発表をします。修正があれば修正、なければ踊りこみをして本番に備えていきます。
第8回	2年間の総まとめ(学期末試験)	卒業公演についてと2年間の感想などを話し合います。最後に衣装を着て作品を踊り総まとめとします。

### 学期末試験評価方法

出席30%、試験(作品制作)50%平常点20%

作品をどこまで掘り下げて制作しどこまで踊りこむことが出来たか、卒業公演に対する取り組み方や気持ちが向いていたか、ダンスに対する姿勢も最後の評価のポイントとしていきます。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	インストラクション研究 I	武井一仁

科目概要

春学期では「ウォーミングアップのエクササイズ」を発表していきます。実際に指導していく段階に入っていきます。踊るために必要な身体を創り上げ、精神的にも高揚させられるようなウォーミングアップを組み立て、生徒たち(クラスメート)に実際に指導しましょう。

到達目標

実際の発表では、場を仕切りテンションを上げさせ、生徒の動向を観察し臨機応変に注意を与えるという作業が必要にです。スムーズな進行には、事前に何度も自分自身で確かめてみましょう。また受ける側に立つ人は、しっかりと内容を観察・分析し、自身のために役立てましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エクササイズ発表①	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。流れがスムーズになるように、無駄な動きがないように心がけましょう。
第2回	エクササイズ発表②	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。スタジオの一番遠い人に届くように、音楽に負けないように声を出しましょう。
第3回	エクササイズ発表③	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。次の動きのを促す指示は、簡潔に伝わる言葉を選びましょう。
第4回	エクササイズ発表④	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。次の動きを予告するのが指示です。タイミングが遅れないように気を付けましょう。
第5回	エクササイズ発表⑤	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。指示は聞こえなければ意味がありません。音楽とのバランスに気を付けましょう。
第6回	エクササイズ発表⑥	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。人を動かすには説得力が必要です。説得力ある指示を心掛けましょう。
第7回	エクササイズ発表⑦	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。指示を出すには対象があります。誰に行っているのかを意識しましょう。

クォーター末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

試験は特に実施しません。発表内容や授業に対する取り組み方、積極的発言などを評価していきます。人のやっていることを細かく観察し、必ず感想を持つ習慣を付けましょう。そのためには集中力と持続力が必要になります。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	エクササイズ発表①	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。「場」を仕切るにはテンションが必要です。テンション高く進行しましょう。
第2回	エクササイズ発表②	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。「場」を仕切るには牽引力も必要です。テンポよく自分のペースを作りましょう。
第3回	エクササイズ発表③	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。指導に大切なのは観察力です。絶えず生徒を観察することを忘れないでください。
第4回	エクササイズ発表④	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。指示と共に気を付けるポイントも加え、注意を促しましょう。
第5回	エクササイズ発表⑤	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。生徒を観察し、気が付いたことはその場で注意出来るようにしましょう。
第6回	エクササイズ発表⑥	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。ウォーミングアップは身体と共に気持ちもアップできるように指導しましょう。
第7回	エクササイズ発表⑦	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。一方通行の対応にならず、双方向から関わられるように心がけましょう。
第8回	エクササイズ発表⑧	1人ずつ順番にエクササイズを発表します。指導は、基本的には対個人が重要です。個々としてしっかり向き合しましょう。

学期末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

試験は特に実施しません。発表内容や授業に対する取り組み方、積極的発言などを評価していきます。指導力＝リーダーシップということを意識し、どんな時にも積極的に場を仕切れるよう心がけましょう。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	インストラクション研究Ⅱ	武井一仁

科目概要

インストラクション研究も、いよいよ最終段階です。今まで習ってきたことを活かし、コンビネーション指導につなげていくようにしましょう。よく生徒を観察し、「なぜ出来ないのか」を把握し「どうすれば出来るようになるか」を指導します。そのためには観察力と分析力が不可欠になります。

到達目標

進行の仕方やスピード、時間配分なども重要ですが、楽しくまた受けたくなるようなレッスンにはダンス力はもとより話術、牽引力、ユーモアなど、いろいろなものが必要になってきます。どんどん工夫を凝らし、楽しく、生徒が成長できるダンスクラスを心がけましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コンビネーション指導①	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。振り入れのスピードに注意しましょう。最初は見ながらマネが出来る早さです。
第2回	コンビネーション指導②	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。生徒が覚えやすい長さを考えて振りを入れていきましょう。
第3回	コンビネーション指導③	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。覚えたらテンポを徐々に上げて、曲の速さで出来るようにしましょう。
第4回	コンビネーション指導④	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。カウントで踊っている時も、曲で踊っている時も観察を怠ってはいけません。
第5回	コンビネーション指導⑤	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。生徒がやりにくそうにしているところ、間違えたところをチェックしましょう。
第6回	コンビネーション指導⑥	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。チェックした個所を個別にフォローしたり、全体に説明し直すことで対応しましょう。
第7回	コンビネーション指導⑦	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。振り入れは生徒の集中力が切れないようにテンポよく進行させましょう。

クォーター末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。視野を広げ、観察力・分析力を最大限に発揮し指導しましょう。また、人のレッスンを良く観察し、自身の指導に活かしましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コンビネーション指導①	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。質問があった場合は個別対応にとどまらず、答えを全員と共有しましょう。
第2回	コンビネーション指導②	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。振りを間違えて覚えている人を見逃さず、指摘して訂正出来るようにしましょう。
第3回	コンビネーション指導③	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。出来ないところを出来るように、分かり易く「How to」を教えましょう。
第4回	コンビネーション指導④	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。「How to」を教えるには自分の動きを理論的に把握する必要があります。
第5回	コンビネーション指導⑤	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。「何故出来ないのか」「何故出来るのか」「どうすれば出来るのか」を考えましょう。
第6回	コンビネーション指導⑥	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。人は興奮状態の方が体が動きます。生徒の気持ちを高める雰囲気を作りましょう。
第7回	コンビネーション指導⑦	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。振りを覚えたら曲に合わせて何回も踊らせますが、その都度注意点を伝えましょう。
第8回	コンビネーション指導⑧	1人ずつコンビネーション指導をしていきます。ダンスレッスンでは、生徒に「また習いたい」と思わせる演出が重要なポイントです。

学期末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。一つひとつの言動に説得力があるよう、常に自信を持って仕切りましょう。ステージと一緒に。自身の魅力や実力を自身を持って表現していきましょう。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	パフォーマンスプレゼンテーション I	武井一仁

科目概要

1・2クォーターでは、「3分間のソロ・ダンス」を踊りきりましょう。1分程度なら誰でも持続できます。その先を踊りきれようになりましょう。ジャンルは自由です。1人で踊る覚悟を持って、自信のあるダンスで、プレゼンテーションしてください。また人の踊りを見て長所・短所をしっかりと見極め、自身の踊りに反映させましょう。

到達目標

ダンサーは、基本的にはソリストです。何人で踊っていようが、個人個人がしっかり踊りきれていなければ、その存在価値は希薄になります。ここでは、ソロで踊る力を養います。単に技術ではなく、踊り(作品)への入り込み方、見せ続ける精神力や集中力、心身ともに開放する能力などが必要になります。これらがあって、始めて表現力が生まれるのです。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3分間のソロパフォーマンスの発表①	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。3分間を踊り切ることが大切です。そのためにはまず「集中力」です。
第2回	3分間のソロパフォーマンスの発表②	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。1人で踊るのは非常に緊張します。緊張に打ち勝つのも集中力です。
第3回	3分間のソロパフォーマンスの発表③	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊る前に覚悟を決めましょう。この覚悟無しでソロは踊れません。
第4回	3分間のソロパフォーマンスの発表④	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊る前に開き直りましょう。この開き直りこそ大きな力になります。
第5回	3分間のソロパフォーマンスの発表⑤	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊りは平常では踊れません。テンションをマックスまで上げましょう。
第6回	3分間のソロパフォーマンスの発表⑥	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊るということは「演じる」ことです。いつもの自分は捨てましょう。
第7回	3分間のソロパフォーマンスの発表⑦	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊りきるためには自分を信じ切ることが大切になります。

クォーター末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。また、世界的に有名なダンサーの踊りを見るように心がけましょう。いい踊りを見て、自分のイメージを豊富にすることも、ダンサーにとって重要なことです。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3分間のソロパフォーマンスの発表①	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。発表の前に十分練習を重ねましょう。練習は、もちろんフルアウトです。
第2回	3分間のソロパフォーマンスの発表②	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。カウントは音楽で言う「楽譜」です。踊るときは音を聴きましょう。
第3回	3分間のソロパフォーマンスの発表③	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。カウントが見えるダンスより音楽が聞こえるダンスを踊りましょう。
第4回	3分間のソロパフォーマンスの発表④	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。練習は大切ですが、練習の通り踊ろうとせずゼロからスタートしましょう。
第5回	3分間のソロパフォーマンスの発表⑤	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。3分間は思ったより長いので、ペース配分を考えましょう。
第6回	3分間のソロパフォーマンスの発表⑥	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。見せ場を意識して踊りましょう。メリハリが大事です。
第7回	3分間のソロパフォーマンスの発表⑦	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。目力も大事です。体と同じように、目も筋肉(眼筋)を使って力を宿します。
第8回	3分間のソロパフォーマンスの発表⑧	1人ずつ順に「3分間のソロパフォーマンス」を発表します。誰に見せているのかを意識し、対象をとらえて踊りましょう。

学期末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。うまいだけの小手先のダンスではなく、印象に残る「素敵なダンス」を心がけましょう。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	パフォーマンスプレゼンテーションⅡ	武井一仁

科目概要

3・4クォーターではオーディションを想定して「1分間のソロ・ダンス」を踊りましょう。実際にオーディションに必要な瞬発力を意識し、プレゼンテーションしていきます。また順番に批評をし、人の踊りを評価することも覚えましょう。人のダンスを観察・分析することも、自身のステップアップに効果的です。

到達目標

オーディションでのダンスは短時間で自分の魅力や実力を発揮しなければなりません。3分間の時と違い、最初からクライマックスのつもりで入っていかなければなりません。その際の感情やボディコントロール、集中力、そしてなにより「開き直り」も必要になってきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1分間のソロパフォーマンスの発表①	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。オーディションだと思って大きな声で挨拶してから始めましょう。
第2回	1分間のソロパフォーマンスの発表②	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。最初からマックスで踊るにはスイッチの入れ方が重要になってきます。
第3回	1分間のソロパフォーマンスの発表③	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。大きく、力強く、空間を揺るがすように踊りましょう。
第4回	1分間のソロパフォーマンスの発表④	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。前に対する圧が重要です。どうすれば圧をかけられるか考えましょう。
第5回	1分間のソロパフォーマンスの発表⑤	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。自分の世界を作りましょう。そのためには演じることが大切です。
第6回	1分間のソロパフォーマンスの発表⑥	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。自分をアピールする「武器」を身に付け披露しましょう。
第7回	1分間のソロパフォーマンスの発表⑦	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。「上手く」踊ろうと思ってはいけません。「素敵」に踊ってください。

クォーター末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。何を「売り」にしているかを明確に意識することが大切です。そこを追求しないと踊りに説得力が生まれません。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1分間のソロパフォーマンスの発表①	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊る前に自分を解放して、聞こえてきた音楽に反応しましょう。
第2回	1分間のソロパフォーマンスの発表②	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。音楽を聴いて音を表現しましょう。カウントダンスは禁物です。
第3回	1分間のソロパフォーマンスの発表③	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。体から音が出ていますか？その音と音楽をマッチさせましょう。
第4回	1分間のソロパフォーマンスの発表④	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。踊り始めて場の空気を変えれば、見てるものは一瞬で引き込まれます。
第5回	1分間のソロパフォーマンスの発表⑤	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。表情を顔に頼らず目や手、体全体から出る表情を大切にしましょう。
第6回	1分間のソロパフォーマンスの発表⑥	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。音楽の持つグルーヴとダンスのグルーヴを合わせましょう。
第7回	1分間のソロパフォーマンスの発表⑦	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。何を「売り」にしているのか、自分の魅力を明確に表現しましょう。
第8回	1分間のソロパフォーマンスの発表⑧	1人ずつ順に「1分間のソロパフォーマンス」を発表します。スタジオの空間に収まらず、突き抜けたスケールを心掛けてください。

学期末試験評価方法

出席20%、発表内容50%、平常30%

特に試験は実施しません。発表内容や取り組み方、積極的発言などを評価していきます。見ている人が踊りたくなるような、人の心をゆすぶる踊りを目指してください。そのためには自分自身が、まず楽しめること。つつい忘れてしまいがちな「原点」です。そして、これは一生持ち続けなければならない、ダンサーの「ポリシー」でもあります。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
春	ヒップホップⅢ	鶴園千尋

科目概要

1年生の時に学んだ事を再確認していきます。常に体全体でリズムを取る事を努力していき、動きに流れを作っていきます。また、ヒップホップダンスをベースにジャズダンスの要素を取り入れたヒップホップジャズも学んでいきジャンルの幅を広げていきます。

到達目標

純粋なレベルアップを目標とします。ヒップホップは得意だけどジャズは苦手、逆にヒップホップは苦手だけどジャズは得意、という事がなくなるようにそれぞれの特性をしっかりと掴み、踊りの幅を広げてジャンルにとらわれる事のないフレキシブルなダンサー像を作っていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング	2年生になっても基本的なところから見直していきます。リズムトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上をしていきます。
第2回	表現の確認	手、足の処理を中心に表現の仕方を確認していきます。流れが切れてしまう事なく動けるようにしていきます。
第3回	ステップ練習	上半身、下半身のバランスを考えて正確にステップを踏んでいきます。大きく動いても暴れて見えないようにしていきます。
第4回	コンビネーション①	いかに早く、正確に与えられた振付の意図を理解して覚える力をつけていきます。
第5回	コンビネーション②	コンビネーションを覚えたら流れが止まることなく、綺麗な動き、綺麗なダンスを意識して表現できるようにしていきます。
第6回	コンビネーション③	手、腕、肩、首の傾き、顔の角度など一つ一つを大事にし尚且つ大きく踊る為にどうするか研究していきます。
第7回	発表(クォーター末試験)	コンビネーションを覚えて発表をします。基礎能力が上がっているかの確認もしていきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
振付に対する正確さをポイントとして見ていきます。また、ダイナミックに踊る事が出来ているか、音楽をしっかりと聴いて踊っているか、などコンビネーション全体を評価の対象として見ていきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	HIPHOP JAZZについて	アーティストのバックダンサーがよく踊っているジャンルです。HIPHOPとの違いを知って踊り分けをしていきます。
第2回	イントロダクション①	体の使い方を覚えていきます。基本的には一緒ですがジャズの要素も入ってきます。
第3回	イントロダクション②	表現方法を覚えていきます。JAZZの要素を取り入れて繊細に踊ることを心掛けていきます。
第4回	イントロダクション③	アクセントの取り方を覚えていきます。HIPHOPの取り方とは違うの使い分けが出来るようにしていきます。
第5回	コンビネーション①	HIPHOP JAZZの振り付けを覚える力をつけていきます。ただ覚えるのではなく特徴を掴む事が大切です。
第6回	コンビネーション②	コンビネーションを覚えたらHIPHOPかJAZZのどちらかに偏った踊り方にならないように気をつけます。
第7回	コンビネーション③	音に対するアプローチや曲のイメージ、感情表現も考えながら踊っていきます。もちろんジャンルも考えながらです。
第8回	試験(学期末試験)	コンビネーションを覚えて発表をします。HIPHOP JAZZの特性を理解して表現していきます。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
「HIPHOP JAZZ」の踊り方を理解してHIPHOPとの違いを表現できているかをポイントとします。振付を正確に取り、曲の表現や振付の意図を理解しているかもポイントとします。

ダンス学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヒップホップⅣ	鶴園千尋

科目概要

3月に行われる2年間の集大成である「卒業公演」に向けて体作りを継続し、体の使い方、振りの覚え方、表現の仕方など、全てにおいてバランスよくレベルアップをしていきます。自分の苦手な部分から逃げず、正面からぶつかり克服をしていきます。

到達目標

細かいところまで自分の動きを確認していき無駄な動きが無く、尚且つオリジナリティのあるダンスを出来るようになっていきます。卒業公演の振付はリハーサルを想定して行います。振りを早く自分の物にして踊り込みをしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング・応用	今一度自分のリズム取りの見直しをしてトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上と応用を覚えます。
第2回	表現の確認・応用	表現の仕方を確認していきます。制限を設けても自分で与えられた表現を出せるか研究していきます。
第3回	ステップ練習・応用	1年生からここまでに習ってきたステップの確認とそこからのパリエーションを研究していきます。正確なリズムも考えながら行っていきます。
第4回	コンビネーション①	どのようにすれば振付を覚えるスピードを上げられるか覚え方の工夫を考えて振り取りに臨みます。
第5回	コンビネーション②	振付の意図を理解して自分よがりのダンスにならないように意識して振付者の伝えたい表現を出来るようにしていきます。
第6回	コンビネーション③	体の部分部分、全ての箇所神経を行き渡らせ全身で踊るようにしていきます。大きく踊ることと雑に踊ることの違いがわかるようにしていきます。
第7回	発表(クォーター末試験)	コンビネーションを覚えて発表します。全身を使って振付を覚えて細かいところまで見落とさないようにします。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
卒業公演の振付に入る前の最終確認と考え、ここまでに習ってきた体の使い方、音楽の表現、振付の意図を理解しているかをポイントとします。もちろん正確に踊ることを大前提とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業公演①作品イメージ	振付に入る前に振付と曲のイメージを伝えます。そこからイメージを膨らませていき振付に入っていきます。
第2回	卒業公演②振付	リハーサルとして行うので少ない振り写しで素早く正確に振付を覚えて細かいところまでこだわっていきます。
第3回	卒業公演③振付	手の出し方や角度まで細かくチェックしていきます。自分の形を鏡で確認をして鏡無しでも動かしているか確認していきます。
第4回	卒業公演④振付	全員で振りの確認をしていきます。手の出し方や角度が全員で揃っているか確認していきます。
第5回	卒業公演⑤踊り込み	作品の踊り込みをしていきます。出来ない箇所が無くなるまで繰り返し練習を行い完成度を上げていきます。
第6回	まとめ	2年間で学んだ事を作品に反映させていきます。また全員で作品に対するモチベーションを上げて気持ちを高めていきます。
第7回	最終確認	衣装を着て全員で踊り、動画撮影をして客観的に見て足りないところ発見して直しを行います。
第8回	発表(学期末試験)	卒業公演の作品を踊ります。最後の試験なので悔いのないように踊りきるようにします。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。  
2年間で学んできた全ての事を理解して実力として反映できているかをポイントとしていきます。また卒業公演の作品の中で全員と協力し合い、作品の完成度を上げていく努力を行っていたかもポイントとします。